

・10月31日(土)、天皇賜杯第75回全日本軟式野球大会(於:倉敷市玉島の森野球場)に、本町に野球部のある(株)テクノスジャパンが初出場したため、町を代表し、応援に行っていました。

8月、9月に厳しい静岡県予選を勝ち抜いて、本大会では全国大会常連の強豪チーム(株)スリーポンド(東京)と対戦し、8回まで0-3の苦しい試合展開で、最終回に2点を挙げる反撃を見せてくれましたが、1点差の2-3で惜敗しました。テクノスジャパン野球部の皆様には、かつて清水中学校の部活動指導にもご協力いただきました。見応えのある試合をありがとうございました。本当にお疲れ様でした。



・10月29日(木)、清水町都市計画審議会を開催しました。

清水町商工会、区長会、農業委員会、民生委員児童委員会協議会、静岡県建築士会沼津支部、沼津警察署、町議会の参画をいただき、8人の皆様に委嘱状を交付しました。

本年度は、清水町都市計画マスタープランの改定や清水町立地適正化計画の策定など5件の事項についてご審議いただきます。これらは、人口減少・少子高齢化時代に対応するとともに、地域の活性化、個性あるまちづくりを進めるために必要不可欠な計画であり、将来の町のあり方を踏まえ、適正な取り組みが行われるよう、委員の皆様の豊富な経験や知識を活かした率直なご意見をいただきたいと存じます。



・10月28日(水)、駿東市町長会視察研修で、MERIDA X BASA(伊豆の国市伊豆ビレッジ内)、日本サイクルスポーツセンター(伊豆市)を訪問しました。

東部伊豆地域の自転車好適地としてのポテンシャルや伊豆の国市との協働事業、自転車競技ナショナルトレーニングセンターの取り組みなどについて研修し、施設内を視察いたしました。来年の夏までに新型コロナウイルスが終息し、ぜひとも東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技が、無事この地で開催できますことを祈念しております。



・10月27日(火)、沼津法人会清水支部の皆様との町政懇談会を開催しました。

本来であれば、各地区で町政懇談会を開催し、多くの町民の皆様の声を聴く機会を設けたいと考えておりましたが、本年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、町内の各種団体の皆様と参加人数を制限して開催させていただくこととしました。まず、町長の私から、事前にいただきました26項目の要望・質問等について回答し、その後、意見交換を行いました。法人会役員の皆様からは、地元企業と町との密接な連携や特産品のPR方法、町の情報発信の課題等、多岐にわたるご意見をいただきました。誠にありがとうございました。この町政懇談会は約10団体と実施予定ですが、ほかにも懇談会という形式にこだわらずに、町民の皆様のご意見を直接伺えるような場があれば、ぜひ参加させていただきたいと考えておりますので、気軽にお声掛けください。



・10月26日(月)、狩野川第三架橋及び都市計画道路西間門新谷線の整備について、坪内秀樹県議会議員と渡邊和豊町議会議長とともに、静岡県へ要望に行ってまいりました。

国道1号以南から県道下土狩徳倉沼津港線、徳倉橋等では、通勤時間帯に加え、日中においても交通渋滞が発生しており、町の大きな課題となっております。そのため現在、渋滞解消対策として、新たな南北軸の形成を目指し、都市計画道路玉川卸団地線の整備に向けた準備を進めておりますが、さらに大きな効果が期待される狩野川第3架橋の事業化、都市計画道路西間門新谷線の整備促進について、県交通基盤部長の長縄知行様ほか、関係部署に要望活動を行いました。



・10月22日(木)、第2回クリテリウム大会実行委員会を開催しました。

今回は令和2年度の大会中止の判断についての検証と今後の開催について、ご審議いただきました。実行委員の皆様から「新型コロナウイルスの終息も見えない状況で、来年度以降も感染症対策の面で安全に大会を実施するのは難しいのではないか」「コロナ対策で町の財政が厳しい中、もっと優先して実施すべき事業があるのではないか」「東京オリンピックの開催も不透明な状況なので、来年度以降も一旦中止とし、また機運の盛り上がり次第で、再検討すべきではないか」というご意見をいただきました。本大会は、平成25年に町制施行50周年の記念事業として開催し、これまで6回実施しましたが、東京オリンピックの機運醸成と、大会を通じて清水町を全国に発信し、交流人口を拡大するという所期の目的は、十分達成できたものと考えます。大会直前で中止する場合、予算措置に大きく影響を与えかねないため、早期の決断ではありますが、来年度以降も開催しないことを決定いたしました。よろしくご理解の程、お願い申し上げます。



・10月21日(水)、岩井茂樹国土交通副大臣が狩野川放水路(伊豆の国市)を視察され、町長の私も同行いたしました。狩野川放水路は、62年前に県東部に甚大な被害をもたらした狩野川台風の教訓を基に整備され、昨年10月に台風19号が上陸した際には効果を発揮し、狩野川本流での河川堤防の決壊や氾濫被害を食い止めました。しかしながら、本町でも浸水被害を受けた家屋などがあり、また周辺市町の支流域で内水被害も発生したことから、沼津河川国道事務所長と流域7市町の首長で、治水対策の推進強化を要望いたしました。



・10月21日(水)、定例区長会に出席しました。今回は区長の皆様に、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した町民体育大会やクリテリウム大会について、来年度以降は新しい生活様式を取り入れ、時代の変化に対応した形で開催の方向性を検討していく旨をご説明申し上げました。また、くらし安全課から水害時における浸水想定区域の避難所開設順序等や、沼津警察署生活安全課から希望のある区に対し、防犯カメラの貸し出しによる防犯強化についてご説明しました。今年は秋が短く一気に冬の気配が感じられますが、区長の皆様方におかれましては、新型コロナウイルスやインフルエンザへの対策を十分に行っていただき、区のリーダーとして益々のご活躍を祈念いたします。



・10月21日(水)、清水町総合計画審議会の原衛会長(町商工会長)、原田茂徳副会長(町社会福祉協議会長)から、第5次総合計画案について、町からの諮問に対し「概ね妥当」との答申をいただきました。

総合計画の策定に当たりましては、コロナ禍の厳しい制限がありながらも、町民アンケートやワークショップを始め、パブリックコメント等を実施する中で、多くの町民の皆様からご意見をいただきましたことに感謝申し上げます。今後、町議会12月定例会でご審議いただき、本計画が策定された際には、この答申でお示しいただいたご提言を生かし、新たな将来都市像「くらしやすさで未来をともにつくるまち」の実現に向け、職員一丸となって取り組んでまいります。



・10月20日(火)、ダイドードリンコ(株)様が、昨年、県市町対抗駅伝町の部で優勝した本町を激励のため訪問されました。

ダイドードリンコ(株)様には、第1回大会から毎年、出場する全チームにスポーツ飲料を寄贈していただいております。誠にありがとうございます。本町では駅伝練習時の水分補給に活用させていただいております。同席した朝倉監督からは「今年度から駅伝監督に専念する時間が増え、毎日の練習で選手たちの熱い思いに応えることができている。昨年の優勝タイムを超える記録を目標に、選手一人ひとりをサポートしていきたい」と意気込みを伺いました。コロナを吹き飛ばすご活躍を期待しております。



・10月19日(月)、川勝知事と県東部の6市4町の首長で構成する「東部地域サミットWEB会議」に出席しました。本町からは「点在する拠点(観光資源)を活用した魅力あふれる地域づくり」について提案しました。各ジオサイトを結ぶ周遊ルートの設置や、市街地を走るサイクリングルートの整備、レンタサイクルの魅力の発信等、東部地域の恵み豊かな水資源や自然環境を活用し、本町だけではなく各地域の拠点を結びつけ、一体化を図る提案をしました。こうした取り組みは、湧水の保全や文化の継承にも繋がるものと考えております。川勝知事は「東部地域で統一感のある自転車を活用したネットワークの構築など、県と市町がより一層連携を強化し、一体となって地域づくりを進めていきたい」と述べられました。



・10月15日(木)、第5回清水町みらい会議を開催しました。第5回目を迎えるみらい会議で、岩崎清悟座長から「コロナ禍でコミュニケーションの場が失われている中で、リモートではなくこうして対面での会議が開催できたので、ぜひ今回も建設的で実りある町への提言をしていきたい」とのご挨拶いただきました。早速、現在策定中の総合計画のアンケート結果について、町民の7割はすでに住みやすい町であると感じているが、実際に町民以外が住みたいと感じるか、つまり「住みやすい町(住んでいる人の評価)＝住みたい町(外から見たイメージ)」ではなく、どうすれば「住みたい町」となり移住したいと思ってもらえるかをテーマとし、皆様からご意見を伺いました。近隣市町と比較した本町への厳しいご意見や町のブランドイメージを明確にしたPR戦略などについて、小さい町だからこそできる戦略に関して画期的なご提言をいただきました。



・10月14日(水)、JAなんすんのブランド米「するがの極<sup>きわみ</sup>」の試食会に出席しました。  
南駿農業協同組合の高木代表理事専務様から、本年度の作付や生育の状況についてご説明いただき、試食、PR動画撮影を行いました。「するがの極」は、食味ランキングで表彰された静岡県産「きぬむすめ(特Aランク)」と同じ品種で、更に高い食味値77点以上の厳選されたお米です。粘りが強くもちもちとした食感が特徴で、炊き立てはもちろん、冷めてもおいしくいただけます。「するがの極」を軸に、生産者の皆様とJA、行政が一体となって地産地消や食農教育を盛り上げ、農業振興のみならず、地域産業の活性化にも繋がることをご期待申し上げます。



・10月14日(水)、臼井国際産業(株)様の本社開所式に出席しました。  
世界的に注目される企業が、わが町に新本社を立て替えていただき、新たなスタートを迎えられたことにお祝い申し上げます。臼井国際産業(株)様は、1941年の創業以来、常に新製品の開発に努め、数多くの特許を取得され「世界のUSUI」として、自動車産業の発展に大きく寄与されていることに敬意を表します。今後、町ではコロナ禍で厳しい産業界の活性化に向け、できる限りの支援体制を整備し、活力ある企業が本町で活躍できるようなまちづくりを進めてまいりたいと存じます。



・10月13日(火)、静岡地方気象台の職員の皆様と防災に関する意見交換を行いました。

静岡地方気象台の<sup>しらと</sup>白土気象台長から、大雨警報や特別警報時におけるホットラインの活用や防災・減災に向けた気象台の取り組みなどについて説明を受けました。こうして町へ直接訪問していただき、平時から「顔の見える関係」を構築することで、災害時に危機感の共有や情報連携がスムーズにでき、地域防災力の向上に直結することを期待しております。



・10月12日(月)、静岡県商工会連合会からの財政支援に関する要望書の提出を受けました。

要望書を持参していただいた清水町商工会の皆様からは、「ウィズコロナ、アフターコロナ時代を見据えて経済活動が再開し、落ち込んだ景気が持ち直しつつある動きも見られるが、依然として小規模事業者は苦しい経済状況に置かれている。冬のボーナスを支給できない事業所も数多くあるので、納税猶予などの財政面において特段の配慮をお願いしたい」と述べられました。





・10月9日(金)、静岡県町村会総会(於:ホテルグランヒルズ静岡)に出席しました。

今回は令和2年度の自治功労者表彰が行われ、本町からも勤続30年表彰に該当した職員4人のうち代表者1人が出席し、表彰状が授与されました。受賞した4人の職員には、多年にわたり、地方自治の推進と住民福祉の向上に貢献され、わが町・清水町のためにご尽力賜り、敬意と感謝を申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を期待しております。



・10月8日(木)、(公社)沼津法人会第5ブロック(長泉・裾野・清水)税務研修会(於:長泉町文化センター ベルフォーレ)に出席しました。

市町の枠組みを越えて、会員相互の情報交換や法人会組織の団結を目的に年1回開催され、今回は沼津税務署の小泉美奈子副署長を講師にお招きし、税務行政について研修を行いました。今後も法人会活動の充実、発展が図られることをご祈念申し上げます。



・10月7日(水)、しずおか市町対抗駅伝競走大会の選手選考結果報告会に出席しました。

朝倉監督から選考会での記録タイムの結果等により選考された選手について、報告を受け、大会に向けての意気込みを伺いました。朝倉監督は「選考会には例年の2倍以上の方が参加していただき、非常にやりがいと責任を感じている。連覇に向けあと1か月半練習を重ねて、本番には応援してくださる皆様のご期待に応えられる結果が出せるよう頑張りたい」と決意を語られました。コロナ禍で出場選手の選考にも大変なご苦労があると思いますが、当日は町を代表して現地に応援に行きますので、ぜひ昨年を上回る記録をご期待申し上げます。



・10月7日(水)、令和2年第3回定例議会において固定資産評価審査委員に選任された清水町新宿の岩崎孝様に辞令交付を行いました。

岩崎様には平成29年10月から1期3年間お引き受けいただき、このたびは再任をお願いするものであります。本町では、平成27年以降の固定資産評価審査の申し出はございませんが、今後申し出があった場合には、適正かつ公平な評価審査を行っていただけることを確信しております。



・10月2日(金)、清水町立西小学校で開催された防災・河川環境教育公開授業を見学しました。

この取り組みは、平成28年から国土交通省沼津河川国道事務所が、地域を流れる狩野川を題材に実施しているもので、今回は西小学校4年生が社会科の一環で「私たちにもできる水がいのそなえ」について学習しました。子どもたちは昨年の台風19号を経験しているため、自然災害を身近な問題としてとらえ、ハザードマップを使って避難場所を確認し、家庭での防災グッズや備蓄品などについて話し合い、自分や家族の命を守るために、あらかじめどのような備えをしたらよいか考える貴重な機会となりました。児童の皆さんには、ぜひ授業で学んだことをご家族と話し合っていたいただきたいと思います。



・10月2日(金)、清水町久米田の鑑賞魚センターKAWAGUCHI様から「柿田川mini湧水群」と名付けられた水槽と狩野川水系に生息するホトケドジョウやウグイなど50匹の観賞魚を無償貸与していただきました。

代表の川口久男様から「新しくできた複合施設(まほろば館)に、一人でも多くの皆様に来館してほしいと願い、この水槽を用意しました」との温かいお言葉をいただきました。ぜひ、水槽を上から眺めていただき、柿田川湧水群のわきまに見立てた作品である水槽の世界観をご堪能ください。まほろば館を訪れる皆様に癒しのスペースをご提供いただき、誠にありがとうございました。

